



資料 5

# 次期総合計画の施策とSDGsについて

令和 7 年（2025年） 1 月31日  
第 7 回鎌倉市総合計画審議会





## ○ 施策案とSDGs



### 1. 各施策とSDGsのゴールとの突合

各施策を推進することで達成に寄与できるSDGsのターゲットが属するゴールと各施策の関係を明らかにする。

⇒資料4参照

### 2. SDGsから見た施策の点検・立案（SDGs主流化※）

上記で突合するゴールだけでなく、上記で突合しないゴールの視点から、市の施策の点検を行い、次の展開につなげていく。

※高木超（2024）「総合計画に見るSDGs主流化の到達点と課題－東京都内62区市町村を事例として－」『計画行政』47巻1号 29-40



## ○ 前回（第6回委員会）における御意見

- \* ターゲットの中には必ずしも日本・鎌倉市に関連しないターゲットも多い。一つ一つ潰していくことには、意味がないのではないか。
- \* SDGsを用いる意義は、行政の縦割りをなくすためではないか。（例えば、温暖化対策のゴールは13だが、緑地や廃棄物の対策とかも気候変動に関連している。環境関連の課のみならず、景観やその他関連する部署のと情報共有しながら、予算確保やプロジェクトを考える際に用いるものとする。）
- \* 都市計画に関連する11番のゴールは、元の英語は「Sustainable Cities and Communities」であり、「住み続けられるまちづくりを」という訳では内容が少し狭くなったような気もしている。趣旨を考えると、例えば「土地利用」から「海 浜」までは全て関連する大きな目標である。
- \* 丸がついていれば、そこが一番関連しているものとして、意識して頑張ろうと読みとれるが、丸がついていないものに対して、横断的に見てチェックするということについては、再検討が必要ではないか。



